共　同　研　究

学校生活への青年の適応の問題
(1)

大西誠一郎　久世敏雄*　三輪弘道**
田中鉄也***　加藤隆勝****

I 問　題

青年の人格形成の問題は，現代社会におけるもっとも大きい課題の一つであると考えられる。それは，青年期が人生における第二の誕生であるといわれるように，そこでかれらは自我を発見し，今後の生活に対する新しい生活設計を打ち立て，やがて親の監督から離れて，独立人としての生活をはじめるからである。したがって，もしこの時期に，青年が健康な成長の過程をたどるならば，望ましい成人としてその生涯を送りうる基礎が確立されるであろうし，それとは逆に，もしその生活が不健康なものであり，第二の人生への誕生が順調でないならば，かれらは将来の生活に多くの破たんを来たし，不幸な人生の道程をたどらねばならないかもしれない。

しかして，青年がこれらの事態に対処するためには，青年に作用する外からの力と内からの力とが考えられる。外からの力というのは，青年をとりまくさまざまな条件であり，そこにはまず親や家族が考えられる。さらに，学校，友人，社会等々，さまざまな条件は，あるいは青年の成長を促進し，あるいは逆に抑制する力として作用するであろう。

それとともに，青年自身の中におこる生理的変化と，それによって引きおこされる新しい要求は，青年のものの見方や態度を変えて行くであろう。もちろん，その内部変化はすべての個人に一様におこるものではないし，同一個人についても，ある面では急激に，他の面では徐徐に進行する。そして，この内外の条件は互いに作用しあって，やがて青年期における人格は形成されるのである。

しかして，現代の社会は，こうした条件を考えたとき，はたしてそれは青年にとってもっとも望ましい事態であると言いうるであろうか。第二の誕生という重要な時期にある青年をとりまく外部的な諸条件は，将来の社会をせおう青年の育成上望ましいものであろうか。青少年非行の問題一つを考えてみても，現代のそれは，ただ戦後混乱の一時的現象として看過することの許される問題ではない。学校教育はまた，戦後新しい体制において出発したけれども，その中で学習している青年が，ほんとうに望ましい人格形成の場としてそれをうけとり，そこに悔いなき青春を送っていると言い切れるであろうか。それらの問題の考察は，この小論の範囲外であるけれども，われわれは，現代青年の人格形成の上で何が欠けており，何が必要であるのか，そして，それに対してどう対処すればよいのかを問題意識として持ちつつ，この研究を進めて行きたい。

もちろん，この小論は，青年をとりまくさまざまな条件の中で，とくに"学校生活"に重点をおいている。それは，この小論は，より大きい研究課題，すなわち"現代社会における人格形成に関する研究"[1]の一部として進めたものであり，その中には，筆者等の課題のほか，"家庭における人間関係と青年の人格形成""勤労青年の職場における適応の問題""社会階層と青年の生活意識の問題""現代青年の成熟度の研究""非行青少年の研究"等がふくまれている。もちろんここでは，それら他の研究についてふれることはできないけれども，以上のような関連のうちにこの研究を進めていることを述べておきたい。

さて，筆者等はここで，"学校生活への青年の適応の

*　名古屋大学教養部
**　名古屋大学教育学研究科博士課程学生
***　静岡大学教育学部
****　岐阜大学学芸学部

1)　東大教授依田新氏を代表者とする文部省科学研究費による綜合研究

問題”を取り扱うわけであるが，いうまでもなく，青年にとって学校生活はもっとも重要な生活の場である。そして，中学校では国民のすべてがそこで教育をうけ，高校も全国平均して中学卒業者のうち70.6%がそこに進み，東京においては84.3%，愛知においては69.4%に達している現状である。[1] 現代青年のきわめて多数が，学校生活を中心としてその生活を展開しているわけである。したがって，もしそこに適応することができるならば，それは現代青年の人格形成にとって何より望ましいものとなるであろうが，それとは逆に，学校生活に不適応であるならば，人格形成の上に大きなひずみを生ずることは疑う余地もないところである。したがって，もしそこに適応することができるならば，それは現代青年の人格形成にとって何より望ましいものとなるであろうが，それとは逆に，学校生活に不適応であるならば，人格形成の上に大きなひずみを生ずることは疑う余地もないところである。ただわれわれはここで，どのような適応状態がどのような人格を形成しつつあるかを直接とりあげることをしなかった。その目的を達成するために2つの段階を考えたのである。すなわち，

(1) 現代の中学，高校の生徒は，学校生活の中でどのような点に問題を感じているか。いわば，なにに悩み，なにに困っているかという点を明らかにする。

(2) そして第2には，そのような問題点に関して，生徒たちはどのような姿勢をとり，どう対決しようとしているのか。したがってそれが，青年の人格形成にどのように影響しているのかを明らかにする。

本報告は，前記の中の(1)に属する部分についてであって，現代の中学，高校生が学校生活に関して悩み，困っている点を明らかにしようとしたのである。

Ⅱ 研究法

1. 質問紙作成の手続き

本研究は，質問紙調査法によることにした。質問紙を作成するためには，まず従来の研究を検討したけれども，本研究の目標を達成するためには，既成のものを利用することはできなかった。そこで，本研究のために使用するものを作成することにしたが，それには次のような手続きをとった。

(1) まず，中学生ならびに高校生それぞれ約50名を対象として“あなたが現在学校生活の中で悩んでいる問題，困っている問題はありませんか，あればそれをいくつでも書いてください”と，自由記述によってその回答を求めた。ここで得られたものはきわめて多種多様であるが，これをもとにして討議を重ねた。その結果，問題を次の7つの領域にわけることが適切であるとの結論に達した。すなわち，

勉強のこと，学校生活，卒業後の進路，友人関係，健康・容姿，家庭生活，人生・社会

もちろん，これらの領域は，“学校生活”と関連するしかたが一様でない。ある領域は，きわめて密接な関連をもっているが，他の領域は比較的関連性も薄いということは考えられる。いわば“学校生活”に対して，比較的中心的領域を占めているものと，やや周辺的なものと考えることができる。しかし，ただ“中心的領域”と考えられるものだけをとっても，学校生活への適応の問題を十分尽くし得たということもできないし，また，かりに周辺的領域に属するものであっても，そのことを明らかにすることによって“学校生活”そのものがいっそう明らかにされうるならば，そのこともまた当然考えられねばならないことであるので，筆者等は，むしろ後者の態度をとって，その領域を決定したのである。

(2) 第二段階には，悩み，困っていることについての原因に関して予備調査を行った。第一段階によって得た各問題を示し，“そのことについて悩むようなことがあればその原因をできるだけくわしく書くように”，と求めた。

ここでも対象は，中学生，高校生それぞれ約50名に対して行ったのであるが，ここで得られた回答も，もちろん多様な内容をふくんでいる。そして，ことばの微妙なニュアンスは，個々の生徒の内面生活をうかがうにふさわしいものであるが，質問紙調査という方法のために，これを一定のわくにはめなければならず，最終的には筆者等5人の討議によって，もっとも代表的と思われるもの3個をえらび，選択肢とすることにした。

質問紙の問題を作るために，このような手続きは一般的なものであろうが，筆者等はつねに共同討議を重ね得たことは，適切な問題を作成する上に幸運であった。

なお，上述問題領域の中，“勉強のこと”“学校生活”についてはそれぞれ6個の問題を作成したが，その他の領域については，4個の問題を作成した。したがって，全体としては32個の問題で構成されている。調査用紙は，次に示すとおりである。

1) 文部省：わが国の教育水準—昭和39年度—

共　同　研　究

調　査　問　題

調　査　AD—I

学校　学年　組　番　氏名　　男・女

I　これから，あなたの家庭の職業，父母の学歴，あなたの卒業後の予定について質問しますから，できるだけくわしく書いて下さい。

1）あなたの家庭の職業は何ですか。父がいない場合は母の職業をかいて下さい。

父の職業（　　）　母の職業（　　）

2）父母の最終の卒業学校はどこですか。

父（　　）　母（　　）

3）あなたは進学志望ですか，就職志望ですか。適当なところに○印をつけて下さい。

進学志望　　就職志望　　よくわからない

II　これから，あなたに学校生活についていろいろ質問しますから，できるだけ正直に書いて下さい

1）あなたは，学校生活について，いろいろ困ったりなやんだりすることがあるでしょう。つぎにあなたが困ったりなやんだりすることを32あげましたので，それらを読んで，その通りであればハイ，そうでなければイイエのところに，○印をつけて下さい。

2）つぎに，ハイと答えた人は，困ったりなやんだりしている原因が，i），ii），iii）とそれぞれの質問に3つづつ書いてありますので，そのうち，もっとも適当なところ（□の中）に○印をつけて下さい。

1　上手な（効果的な）勉強の仕方がわからなくて困る　　1　ハイ・イイエ

i）仕方を教わらないから　□

ii）仕方を教わったが，納得（なつとく）できないから　□

iii）自分なりにやってはいるが，うまくいかないから　□

2　成績の悪い科目があって困っている　　2　ハイ・イイエ

i）その科目がなんとなく好きになれないから　□

ii）担当教師との間がうまくいかないから　□

iii）その科目の基礎がわからないから　□

3　クラブ活動ができなくて困る　　3　ハイ・イイエ

i）自分に適したクラブがないから　□

ii）クラブ活動の運営（やり方）がのぞましくないから　□

iii）勉強の時間がたりなくなるから　□

4　勉強の時間がたりない　　4　ハイ・イイエ

i）勉強する科目数が多すぎるから　□

ii）家の手伝いが忙しいから　□

iii）勉強以外のことでしなければならないことが多いから　□

5　勉強するよい場所がないので困っている　　5　ハイ・イイエ

i）家族が多いから　□

ii）勉強する部屋がないから　□

iii）家のまわりがやかましいから　□

学校生活への青年の適応の問題

6　勉強する気になかなかなれない　　6　ハイ　・　イイエ

i）テレビ・ラジオが気になって勉強ができないから　□

ii）家庭環境が望ましくないから　□

iii）机にすわってもほかのことが気になるから　□

7　先生からの忠告をすなおにうけとれない　　7　ハイ　・　イイエ

i）すなおにすると自分というものを失ってしまうように思うから　□

ii）とくにある先生の言葉に対して，反感をいだくことがあるから　□

iii）先生を信頼することができないから　□

8　先生の指導について納得（なつとく）しにくいことがある　　8　ハイ　・　イイエ

i）先生が，不公平であるから　□

ii）先生が，自分たちの考えをとりあげてくれないから　□

iii）先生が，自分の考えをおしつけるから　□

9　学校生活にはりあいがない　　9　ハイ　・　イイエ

i）進学や就職に，とらわれすぎるから　□

ii）学校生活が形式的で親しみにくいから　□

iii）親しく話しあえる友だちやグループがないから　□

10　ホーム・ルームがつまらない　　10　ハイ　・　イイエ

i）みんなが勝手な発言ばかりするから　□

ii）ホーム・ルーム時間の内容がつまらないから　□

iii）生徒間にホーム・ルーム活動をもりたてようとする関心がうすいから　□

11　先生と十分に話しあうことができない　　11　ハイ　・　イイエ

i）自分から進んで先生に話しかける勇気がないから　□

ii）先生と話しあってもあとが気になるから　□

iii）話しあう適当な機会がないから　□

12　授業がつまらない　　12　ハイ　・　イイエ

i）先生の教えてくれることが理解できないから　□

ii）先生にユーモア（おもしろみ）がないから　□

iii）先生の教え方になじめないから　□

13　将来どういう方向へ進んでよいかわからない　　13　ハイ　・　イイエ

i）自分の将来について深く考えたことがないから　□

ii）自分の能力や適性がどの方面にむくかわからないから　□

iii）高校・大学の内容や職業についての指導がなされていないから　□

14　自分の希望している学校（職業）と親のすすめる学校（職業）とが一致しない　　14　ハイ　・　イイエ

i）卒業後の進路について自分の考えと親の考えとがちがっているから　□

ii）親は自分の実力を知らないから　□

iii）親が世間体（せけんてい）を気にしすぎるから　□

15　進学したいが家庭の事情で進学できるかどうかわからない　　15　ハイ　・　イイエ
　i）経済的に困難だから　□
　ii）親が家業をつぐことを望むから　□
　iii）進学に対して親の理解がとぼしいから　□

16　将来の職業選択について周囲と意見があわない　　16　ハイ　・　イイエ
　i）家族の中でみんなの意見が一致しないから　□
　ii）自分には自分の夢があるから　□
　iii）自分の選んだ職業のよさを親は認めてくれないから　□

17　心から信頼する友だちがえられないから　　17　ハイ　・　イイエ
　i）信頼できる友だちがみあたらないから　□
　ii）ひっこみ思案で積極的になれないから　□
　iii）友だちに期待することが多すぎるから　□

18　異性の友だちがなかなかえられない　　18　ハイ　・　イイエ
　i）積極的に近ずく勇気がないから　□
　ii）近ずく機会がないから　□
　iii）周囲から誤解（ごかい）されやすいから　□

19　何事につけ友だちから劣っているように思われてならない　　19　ハイ　・　イイエ
　i）学力や運動の能力が友だちより劣っているから　□
　ii）身体や容姿が友だちより劣っているから　□
　iii）家庭の状況が友だちより劣っているから　□

20　友だちとうまく協力できない　　20　ハイ　・　イイエ
　i）自分が負けずぎらいだから　□
　ii）相手が自分をじまんするから　□
　iii）友だちの悪いところばかり目につくから　□

21　体格や容姿について他の人にひけめを感じる　　21　ハイ　・　イイエ
　i）体格や容姿について気にかかるところがあるから　□
　ii）他の人が自分の体格や容姿についてとやかくいうから　□
　iii）体格や容姿によって他の面でもさべつされるから　□

22　現在身体に悪いところがあって困っている　　22　ハイ　・　イイエ
　i）体の悪いところが気になって勉強に集中できないから　□
　ii）治療の時間的余裕（よゆう）がないから　□
　iii）身体の状態の悪いところをしばしばひやかされるから　□

23　勉強や運動に無理ができない　　23　ハイ　・　イイエ
　i）健康に自信がなくて不安だから　□
　ii）医者や先生に相談しても本気でとりあげてくれないから　□
　iii）健康に自信がなくて学校生活がいやになるから　□

学校生活への青年の適応の問題

24　眠れなくて困ることがある　　24　ハイ　・　イイエ

i）まわりがやかましくてうるさいから

ii）精神的にいらいらするから

iii）神経質だから

25　家族の間によくあらそいがおこる　　25　ハイ　・　イイエ

i）両親が不和だから

ii）きょうだいがみなわがままだから

iii）家族関係がふくざつだから

26　親と自分との間に溝（みぞ）がある　　26　ハイ　・　イイエ

i）親の気持が理解できないから

ii）親が自分を理解してくれないから

iii）親ときがるに話しあう気になれないから

27　親が自分の能力をほんとうに知らない　　27　ハイ　・　イイエ

i）親が自分の能力を認めてくれないから

ii）親があまりにも自分に期待しすぎているから

iii）親があまりにも無関心であるから

28　家の雰囲気（ふんいき）がおもしろくない　　28　ハイ　・　イイエ

i）自分の心配ごとを話す人がいないから

ii）家の中がごたごたしていておちつかないから

iii）いつまでも子ども扱いにされるから

29　人生いかに生くべきかよくわからない　　29　ハイ　・　イイエ

i）人生について自分の考えがまだはっきりもてないから

ii）将来どんな人間になったらよいかわからないから

iii）人生の問題について親切に教えてくれる人がいないから

30　大人の社会は矛盾（むじゅん）にみちており不合理なことが多い　　30　ハイ　・　イイエ

i）大人は自分勝手なことが多いから

ii）大人の行動にはうらとおもてがあるから

iii）金とえんこが幅をきかせているから

31　何のために勉強するのかよくわからない　　31　ハイ　・　イイエ

i）今ならっていることが将来どのように役立つかわからないから

ii）就職や受験のためばかりの勉強になっているから

iii）学力があっても社会で認めてくれないから

32　人生に希望がもてない　　32　ハイ　・　イイエ

i）自分の能力に自信がもてないから

ii）人を信ずることができないから

iii）心をうちこんでするものがないから

Table 1　調　査　対　象

	地域	校種	1年 男	1年 女	1年 計	2年 男	2年 女	2年 計	3年 男	3年 女	3年 計	計 男	計 女	計 計
高校	岐阜市	普通課程				141	66	207						
		工業高校				203	3	206						
		定時制				78	92	170						
	浜松市	普通課程 K				250	45	295						
		普通課程 M				212	53	265						
	名古屋市	普通課程 A	72	33	105	61	47	108	62	46	108			
		普通課程 F	62	43	105	61	45	106	59	43	102			
	高校計		134	76	210	1,006	351	1,357	121	89	210	1,261	516	1,777
中学	名古屋市	K 校	41	37	78	46	38	84	51	34	85			
		F 校	52	37	89	51	43	94	48	40	88			
	中学校計		93	74	167	97	81	178	99	74	173	289	229	518

2. 整理の観点ならびに調査対象

(1) 整理の観点

上述のように，現代の中学，高校生が，学校生活においてどのような点に悩み，困っているかを調査しようとしたのであるが，それを考察するために，次のような観点から整理し考察することにした。

(a) 中学，高校，学年，男女ごとの比較

(b) 学校種別間における適応情況の比較

(c) 就職希望か進学希望かによる比較

(2) 対象

対象としては，(a)学年の進行に伴なう変化を見るために，まず中学1，2，3年，高校1，2，3年をえらび，(b)学校種別間における適応情況を比較するためには，とくに高校2年を対象とした。そして，普通課程の高校と工業高校，定時制高校生徒を対象とし，さらに，同じく普通課程高校にあっても，いわゆる一流校として進学率の高い高校と，それと対照的に進学率の低い高校とを対象とした。それらを一覧にして示すと，Table 1 のようである。

(3) 調査期日

予備調査　1964年9月

本調査　1964年12月

Ⅲ 結果とその考察

1. 学年，男女肯定回答（悩みがあるとしたもの）比率

まず，与えられた32の問題に対して，肯定回答したものの比率を，中学，高校，それぞれ学年，男女別に示すと，Table 2，(A) (B) のとおりである。なお，これらの比率を，中学，高校学年相互間において検定した結果は，Table 3，(A) (B) のとおりである。

これらの結果から，一義的な結論を引き出すことはかなり困難であるが，いくつかの結果をまとめることができる。

(1) まず，男子についてみると，肯定回答数に関しては，中学の方に学年差はややみられるが，高校の方では，有意差の認められる問題はきわめて少ない。そこで，中学だけについてみると，中2～中3の間にはあまり顕著な差は現われないが，中1～中2，さらに中1～中3の間には，かなり有意差の認められる問題がある。

たとえば，1.上手な勉強の仕方や，10.ホーム・ルーム，13.将来の方向，さらに29.人生の生き方や，31.勉強の意義等に対して，中1よりも中2がより多くの悩みを訴えている。また，中1と中3との間には，ことに学校生活に関する問題（8.先生の指導，9.学校生活のはりあい，10.ホーム・ルーム，12.授業のあり方）や，人生・社会に関する問題（30.大人の社会の矛盾，31.勉強の意義）について多くの悩みを訴えている。

このことは，中学男子にあっては，中学1年と2年との間に，学校生活に関して一つの断層ともいうべきもののあることが考えられる。学年別回答数の平均（Table 2）についても言いうることであって，平均が示しているように，中1は平均29.6%の悩みを訴えているのに

Table 2　学年別肯定回答比率

(A)　男　　子

問題領域	問題番号	中1 N=93	中2 N=97	中3 N=99	高1 N=134	高2 N=122	高3 N=121
Ⅰ 勉強のこと	1	65.6	86.6	77.8	67.2	71.3	62.8
	2	93.5	92.8	92.9	89.6	92.6	84.3
	3	22.6	22.7	32.3	24.6	23.0	25.6
	4	19.4	29.9	34.3	29.1	26.2	34.7
	5	20.4	19.6	9.1	11.2	12.3	16.5
	6	77.4	77.3	78.8	70.2	76.2	69.4
Ⅱ 学校生活	7	14.0	15.5	29.3	26.9	36.9	33.1
	8	29.0	37.1	64.6	54.5	59.8	47.9
	9	15.1	20.6	31.3	38.1	47.5	41.3
	10	40.9	57.7	61.6	75.4	71.3	64.5
	11	52.7	59.8	59.6	72.4	68.9	62.8
	12	23.7	37.1	44.4	47.8	43.4	40.5
Ⅲ 卒業後の進路	13	45.2	62.9	56.6	50.0	61.5	37.2
	14	16.1	10.3	13.1	18.7	13.9	9.9
	15	3.2	5.2	1.0	6.7	9.0	4.1
	16	19.4	16.5	20.2	17.9	7.4	13.2
Ⅳ 友人関係	17	30.1	28.9	38.4	30.6	33.6	36.4
	18	48.4	57.7	60.6	54.5	54.1	56.2
	19	21.5	15.5	18.2	11.9	21.3	14.9
	20	25.8	19.6	13.1	9.0	17.2	11.6
Ⅴ 健康・容姿	21	20.4	22.7	21.2	13.4	23.0	24.0
	22	9.7	14.4	8.1	14.9	10.7	7.4
	23	9.7	5.2	5.1	3.7	8.2	10.7
	24	14.0	18.6	23.2	20.9	18.0	16.5
Ⅵ 家庭生活	25	22.6	28.9	13.1	9.0	13.9	14.0
	26	10.8	17.5	12.1	11.9	19.7	19.0
	27	17.2	20.6	14.1	22.4	27.9	28.1
	28	15.1	20.6	21.2	17.2	22.1	19.8
Ⅶ 人生・社会	29	39.8	57.7	52.5	51.5	59.0	57.9
	30	62.4	71.7	78.8	78.4	73.8	71.1
	31	18.3	40.2	49.5	48.5	53.3	43.0
	32	23.7	21.6	20.2	14.2	21.3	20.7
総平均		29.6	34.8	36.1	34.8	37.5	34.3

(B)　女　　子

問題領域	問題番号	中1 N=74	中2 N=81	中3 N=74	高1 N=76	高2 N=92	高3 N=89
Ⅰ	1	71.6	84.0	83.8	80.3	85.9	64.0
	2	89.2	88.9	85.1	93.4	94.6	84.3
	3	20.3	21.0	32.4	19.7	12.0	15.7
	4	23.0	22.2	37.8	42.1	27.2	28.1
	5	14.9	11.1	9.5	15.8	12.0	7.9
	6	68.9	72.8	73.0	71.1	89.1	66.3
Ⅱ	7	5.4	11.1	14.9	18.4	19.6	21.3
	8	39.2	29.6	55.4	39.5	60.9	40.4
	9	14.9	21.0	23.0	28.9	39.1	31.5
	10	50.0	75.3	62.2	75.0	83.7	62.9
	11	62.2	67.9	58.1	71.1	90.2	66.3
	12	21.6	23.5	39.2	42.1	56.5	22.5
Ⅲ	13	63.5	64.2	45.9	61.9	72.8	19.1
	14	5.4	16.0	14.9	14.5	14.1	7.9
	15	2.7	8.6	1.4	11.8	13.0	1.1
	16	14.9	9.9	8.1	13.2	8.7	6.7
Ⅳ	17	37.8	32.1	32.4	36.8	34.8	21.3
	18	36.5	42.0	56.8	51.3	58.7	59.6
	19	16.2	25.9	14.9	36.8	33.7	13.5
	20	17.6	19.8	12.2	14.5	12.0	12.4
Ⅴ	21	20.3	21.0	13.5	35.5	51.1	31.5
	22	2.7	1.2	13.5	10.5	9.8	6.7
	23	6.8	4.9	5.4	5.3	13.0	13.5
	24	24.3	27.2	21.6	26.3	22.8	13.5
Ⅵ	25	13.5	18.5	8.1	11.8	8.7	9.0
	26	13.5	16.0	13.5	6.6	22.8	12.4
	27	17.6	25.9	17.6	14.5	23.9	13.5
	28	10.8	14.8	21.6	5.3	17.4	11.2
Ⅶ	29	50.0	54.3	52.7	63.2	80.4	56.2
	30	66.2	84.0	89.2	81.6	83.7	82.0
	31	23.0	50.6	47.3	55.3	65.2	31.5
	32	18.9	19.8	17.6	21.1	29.3	10.1
総平均		29.5	33.9	33.8	36.7	42.1	29.5

Table 3　学年別肯定回答比率検定結果

(A)　男　子

問題領域	問題番号	中1—中2	中2—中3	中1—中3	高1—高2	高2—高3	高1—高3
Ⅰ 勉強のこと	1	≪					
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
Ⅱ 学校生活	7						
	8		≪	≪			
	9			<			
	10	<		≪			
	11						
	12			≪			
Ⅲ 卒業後の進路	13	<				≫	
	14						
	15						
	16						
Ⅳ 友人関係	17						
	18						
	19						
	20						
Ⅴ 健康・容姿	21						
	22						
	23						
	24						
Ⅵ 家庭生活	25		>				
	26						
	27						
	28						
Ⅶ 人生・社会	29	<					
	30			<			
	31	≪		≪			
	32						

(B)　女　子

問題領域	問題番号	中1—中2	中2—中3	中1—中3	高1—高2	高2—高3	高1—高3
Ⅰ	1					≫	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6				<	≫	
Ⅱ	7						
	8		≪		≪	≫	
	9						
	10	≪				≫	
	11				<	≫	
	12			<		≫	>
Ⅲ	13		>	>		≫	≫
	14						
	15						
	16						
Ⅳ	17					>	
	18			<			
	19					≫	≫
	20						
Ⅴ	21					>	
	22						
	23						
	24						
Ⅵ	25						
	26						
	27						
	28						
Ⅶ	29				<	≫	
	30	<		≪			
	31	≪		≪		≫	≫
	32					>	

注：　>・≫は，それぞれ5％以下，1％以下の危険率で有意な差のあることを示す。

対し，中2，中3は，それぞれ34.8，36.1%と増加している。

(2) 次に，女子はどのようであろうか。女子は男子とは異なって，肯定回答率の差の大きいものは，中学よりも高校の方に多い。そして，高校の方では，高1～高2の間よりも，高2～高3の間において，いっそう大きい差を示している。すなわち，高1～高2の間に，回答率の上で有意差のあらわれているものは，6.勉強する気になれない，8.先生の指導，11.先生との話しあい，29.人生の生き方に関する問題についてであるが，高2～高3の間には，1.上手な勉強の仕方，6.勉強する気になれない等，13問題の回答において有意差が認められる。

しかもここで特徴あることは，これら13問題においては，高2の方が高3よりも高い比率を示しているという点である。この傾向は，高1～高3の比較においても同様であって，高1の方が高3よりもより多くの悩みを訴えている問題は，4つ数えられる。これは何を意味するのであろうか。

さきに，男子においては，中1～中2の間に一つの断層があると言ったが，女子にあっては，高2を中心として，高1と高2，高2と高3との間に一つの断層があると言ってもよいであろう。そしてそのことは，悩みを訴えている総平均からも言えることである。もちろん，中学にあっても女子は1～2年の間に大きい差がみられるが，高校においてはその差はいっそう顕著で，高1の36.7%に対し，高2は42.1%，高3は29.5%と著しく減少している。高校女子は，高2を中心としてその前後に学校生活の上で一つの変化をおこすものと考えることができる。しかもこの"断層"が，男子の中学と異なるところは，男子中学の場合，学年差は，"学校生活"と"人生・社会"の領域に限られていたが，高校女子の場合には，"家庭生活"の領域においては差は認められないけれども，その他ほとんどすべての領域にわたって差が認められる。

2. 中学，高校を通じて，もっとも多く悩みを訴える問題

次に，中学，高校を通じて，もっとも多く悩みを訴える問題は何であろうか。そのことのために，中学，高校をそれぞれ男女別にまとめて比較することにする。(Table 4，5)

Table 4では，中学，高校，男女ごとに，比率の高いものを上位から8問題（○印），同じく比率の低いものを同じく8問題（△印）づつとって示した。なお，それぞれについての検定結果は，Table 5のとおりである。

(1) これによってみると，現代の中学，高校生が，学校生活に関して悩んでいる問題は，きわめて共通したものであることがわかる。もちろんその順位は完全に一致するものではないが，かりにその8問題の中に入らなくても，それぞれの範囲ではみなきわめて高い比率を示している。

また，悩みのもっとも少ないものについてみても，この傾向はほぼ共通に認められる。ただ下位8問題をえらんだ中には，19，26，28の問題のように，△印が1個だけしかないものもある。しかし一般的に言って，中学生男子にとってあまり悩みでない問題は，中学生女子，高校生男子，女子等にとってもほぼ同様であると言えるのである。もちろんこれは，きわめて概括的な言い方であって，詳細に検討するならば，それぞれ問題をはらんでいるけれども，現代学校生活がもっている問題点は，中学，高校に共通した面の多いことがまず指摘される。

(2) 次に，中学，高校，男女間の検定結果（Table 5）によって検討してみよう。まず，中学，高校内における男女を比較してみると，中学では男女間に差のある問題は少ないが，高校においては，男女間に差を示す項目が多くなっている。そして，高校では，男子が女子よりもより多くの悩みを訴えている問題と，それとは逆に，女子が男子よりも多くの悩みを訴えている問題とがある。前者すなわち，男子が女子よりもより多くの悩みを訴えている問題は，3.クラブ活動，7.先生からの忠告，9.学校生活のはりあい，27.自分の能力に対する親の無理解についてである。それとは逆に，より多く女子の方が悩みを訴えている問題は，1.勉強の仕方，11.先生との話しあい，19.友だちからの劣等観，21.体格，容姿の劣等感，29.人生の生き方，30.大人の社会の矛盾などである。

(3) 次に，中学，高校間の男子ならびに女子を比較してみると，男女とも，中学生に比して高校生はより多くの悩みを訴えている。このことは，すでに前にふれたところであるが，中学，高校をまとめて比較する時，その点がいっそう明らかになる。しかもその領域はとくに"学校生活"に多く，その領域のほとんどすべての問題は，中学生よりも高校生が多くの悩みを訴えている。もちろんその他の領域にもその傾向が認められ，男子は，27.自分の能力に対する親の無理解や，31.勉強の意義について，女子は，18.異性の友人，21.体格，容姿の劣等感，さらに，29.人生の生き方，31.勉強の意義について多くの悩みを訴えている。

学校生活を経験するに従って，多くの悩みを持つということは，そのこと自体けっして望ましくないと言い切ることはできない。悩みさえもたないで，ただ機械のよ

Table 4

中学・高校別・男女別肯定回答比率

問題領域	問題番号	中学男子 N＝289	中学女子 N＝229	高校男子 N＝377	高校女子 N＝257
Ⅰ 勉強のこと	1	○76.8	○79.9	○67.1	○76.7
	2	○93.1	○87.8	○88.9	○90.7
	3	25.9	24.5	24.4	15.6
	4	28.0	27.5	30.0	31.9
	5	15.6△	11.8△	13.3△	11.7△
	6	○77.8	○71.6	○71.9	○75.9
Ⅱ 学校生活	7	19.7	10.5△	32.1	19.8
	8	43.9	41.0	54.1	47.5
	9	24.8	19.7	42.2	33.5
	10	○53.6	○62.9	○70.6	○73.9
	11	○57.4	○62.9	○68.2	○76.3
	12	35.3	27.9	44.0	40.5
Ⅲ 卒業後の進路	13	○55.0	○58.1	49.6	51.0
	14	13.1△	12.2△	14.3△	12.1
	15	3.1△	4.4△	6.6△	8.6△
	16	18.7	10.9△	13.0△	9.3△
Ⅳ 友人関係	17	32.5	34.1	33.4	30.7
	18	○55.7	45.0	○54.9	○56.8
	19	18.3△	19.2	15.9	27.6
	20	19.4	16.6	12.5△	12.8△
Ⅴ 健康・容姿	21	21.4	18.3	19.9	39.7
	22	10.7△	5.7△	11.1△	8.9△
	23	6.6△	5.7△	7.4△	10.9△
	24	18.7△	24.5	18.6	20.6
Ⅵ 家庭生活	25	21.4	13.5△	12.2△	9.7△
	26	13.5△	14.4	16.7	14.4
	27	17.3	20.5	26.0	17.5
	28	19.0	15.7	19.6	11.7△
Ⅶ 人生・社会	29	50.2	○52.4	○56.0	○66.9
	30	○70.9	○79.9	○74.5	○82.5
	31	36.3	40.6	48.3	50.6
	32	31.8	18.8	18.6	20.2

注：　○は肯定回答比率の高い上位8問題
　　△は肯定回答比率の低い下位8問題

Table 5

中学・高校別・男女別肯定回答比率検定結果

問題領域	問題番号	中学 男－女	高校 男－女	男 中学－高校	女 中学－高校
Ⅰ	1		<	>	
	2				
	3		>		>
	4				
	5				
	6				
Ⅱ	7		≫	≪	<
	8			<	
	9		>	≪	≪
	10			≪	<
	11		<	<	≪
	12			<	≪
Ⅲ	13				
	14				
	15				
	16				
Ⅳ	17				
	18	≫			≪
	19		≪		
	20				
Ⅴ	21		≪		≪
	22				
	23				
	24				
Ⅵ	25			>	
	26				
	27		>	<	
	28				
Ⅶ	29		<		≪
	30	<	<		
	31			≪	<
	32	≫		≫	

うに生活をくり返えすならば，問題さえも意識しないかも知れない。しかしここに示されるように，高校生が，自分の能力に対する親の無理解を訴え，勉強の意義や人生の生き方により多くの悩みを持つようになるということは，学校教育を考える上に十分検討されねばならない点であろう。

(4) 次に領域別平均回答比率を表示しておこう。(Table 6)

Table 6　領域別平均回答比率

	中学男子			中学女子			高校男子			高校女子		
学年	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
Ⅰ 勉強のこと	49.8	54.8	54.2	48.0	50.0	53.6	48.7	50.3	48.9	53.7	53.5	44.4
Ⅱ 学校生活	29.2	38.0	48.5	32.2	38.1	42.1	52.5	54.6	48.4	45.8	58.3	40.8
Ⅲ 卒業後の進路	21.0	23.7	22.7	21.6	24.7	17.6	23.3	23.0	16.1	25.4	27.2	8.7
Ⅳ 友人関係	31.5	30.4	32.6	27.0	30.0	29.1	26.5	31.6	29.8	34.9	34.8	26.7
Ⅴ 健康・容姿	13.5	15.2	14.4	13.5	13.6	13.5	13.2	15.0	14.7	19.4	24.2	16.3
Ⅵ 家庭生活	16.4	21.9	15.1	13.9	18.8	15.2	15.1	20.9	20.2	9.6	18.2	11.5
Ⅶ 人生・社会	36.1	47.8	50.3	39.5	52.2	51.7	48.2	51.9	48.2	55.3	64.7	45.0

	中学男子計	中学女子計	高校男子計	高校女子計
Ⅰ 勉強のこと	52.0	50.5	49.3	50.4
Ⅱ 学校生活	39.1	37.5	51.9	48.6
Ⅲ 卒業後の進路	22.5	21.4	20.9	20.8
Ⅳ 友人関係	31.5	28.7	29.2	32.0
Ⅴ 健康・容姿	14.4	13.6	14.3	20.0
Ⅵ 家庭生活	17.8	16.0	18.6	13.3
Ⅶ 人生・社会	47.3	47.9	49.4	55.0

3. 学校種別による検討

次に，学校種別によって生徒のいだいている問題点を比較検討するために，次の学校をえらんだ。(Table 1 参照)

岐阜市：　普通課程高校，工業高校，定時制高校

浜松市：　進学率のもっとも高い普通課程K高校
　　進学率の低い普通課程M高校

なお，これらはすべて高校2年生のみを対象としている。その人数は，Table 1 に示したとおりであるが，岐阜市工業高校は，女子は僅か3名であるので，結果の整理からは除外した。

さて，学校種別ごとの肯定回答（悩みありとしたもの）の検討は，学校ごとの回答の順位相関ならびにその比率についてみることにする。

(1) 学校別肯定回答の相関についての結果は Table 7 のとおりである。

この結果によってみると，学校種別間においても，悩みとして訴えている問題の順位については，きわめて高い相関のあることがわかる。もっとも低いものでも，.734（定時制―工業高校）である。

(2) 次に，岐阜市内の三校および浜松市の二校間につ

Table 7　学校別肯定回答の順位相関

(A) 高校男子

岐阜工業	岐阜定時制	浜松M	浜松K	
.946	.909	.959	.942	岐阜普通
	.734	.945	.877	岐阜工業
		.903	.866	岐阜定時制
			.896	浜松M

(B) 高校女子

岐阜定時制	浜松M	浜松K	
.841	.960	.904	岐阜普通
	.877	.916	岐阜定時制
		.944	浜松M

いて検討しよう。（Table 8，9）

(a)　まず，岐阜市における三校についてみると，男子においてやや異なった傾向を認めることができる。総平均の回答率についてみると，工業高校と定時制の両校は，その比率によってあまり差は認められないけれども，普通課程の高校との間にはかなりの差が認められる。

個々の内容については，常に同様の傾向を示しているとは言えないけれども，全体としてこの両校の生徒は，普通課程の生徒に比してより多くの悩みをいだいていることがわかる。さきに，名古屋市の普通課程の高校について考察したとき（Table 2），高2の平均肯定回答率は37.5であったが，これは，岐阜の普通課程高校の38.7に近似した値である。

(b)　次に，個々の問題についてみると，三校の間で有意差の認められるものはそれほど多くない。とくに目立つ問題をひろえば，4.勉強の時間がたりない，という点は，定時制高校の生徒が他の2校に比してとくに訴えている点である。さらに，15.進学したいが家庭の事情で進学できるかどうかわからないことへの悩みも，他の二校に比してとくに訴えている点である。

次に，工業高校が，18.異性の友だちが得られない，ということに対して他の二校に比してより多くの悩みを訴えているが，これは，同校が同学年において3名の女子生徒しかないということが大きな理由として考えられる。またここでは，27.自分の能力に対して親が無理解である，ということも，普通課程高校に比してとくに多くの悩みを訴えている点として目立つ。

(2)　女子については，普通課程と定時制の高校の総平均回数率では，むしろ普通課程の方が多い。そして，普通課程では，10.ホーム・ルームがつまらないとか，12.授業がつまらない等の悩みをより多く訴えている。定時制については，男子と同様，4.勉強時間がたりない点の多いのが目立つ。

(3)　次に，浜松市の両校についての結果を見よう。両校はともに普通課程の高校であるが，すでに述べたように，K校は進学率のもっとも高い学校である。ここでは，進学率の低いM校が，はるかに多くの悩みを訴えている。そしてこのことは男女共通に現われているので総平均についてみると，男子ではM校の41.5%に対しK校は36.2%，女子ではその差はさらに大きく，44.8%に対し34.0%の値を示している。

問題ごとについてみても，男女ともにM校は8問題においてK校よりもより多くの悩みを訴えている。男女共通に見られるものは，6.勉強する気になれない，8.先生の指導についてなっとくしにくい，12.授業がつまらない，32.人生に希望がもてない，などである。これらは学校生活の中心に位する問題であって，それが指導者だけに関する問題ではないにしても，学校における指導の上では十分反省されねばならないことであろう。

なおそのほか，男子では，10.ホーム・ルーム，21.体格，容姿の劣等感，25.家族間の不和，を訴え，女子では，17.信頼できる友人がえられない，19.友だちに対する劣等感，さらに，29.人生の生き方や，31.勉強の意義についてM校生徒がより多くの悩みをもち，積極的な意欲の欠けていることの察せられることは，反省されねばならない点である。

4.　進学希望か就職希望かによる差異について

次に，将来進学希望であるか就職希望であるかによって，回答の上に差異があるかどうかを見よう。もちろんこの調査は，11～12月に行なったので，3年に関する限り将来の進路はほぼきまっている。ただ2年生については，その希望のまだはっきりしていないものもあるはずである。

なお，この結果は，名古屋市内A校の普通課程2，3年のみについて得たものである。（Table 10，11）

(a)　この結果によってみると，進学希望者と就職希望者との間に有意差の現われている問題は少ない。ただ，13.将来どういう方向へ進めばよいかの問題は，進学，就職希望ととも2年生の方により多くの悩みを訴えている。高校3年の終りも近くなれば，そうした問題についてはとにかく方向を見付け出していると言ってよい。さきにも，高校2年は悩みの多い学年であると言ったが，このこととも関連して考えられる。

なおそのほか，2年の就職希望者と3年のそれとの間に，31.勉強の意義について，2年生がより多くの悩みを訴え，また，同じ3年生では，27.自分の能力に対する親の無理解という点で，進学希望者がより多くの悩みを訴えている。

(b)　サンプル数も少なかったために，検定結果では有意差の認められる問題は少ないが，2，3年の進学，就職希望者を合してみると，なおいくつかの差異が認められる。4.勉強の時間がたりない点や，7.先生からの忠告をすなおにうけとれない等は，進学希望者の多く悩む問題であり，それとは逆に，10.ホーム・ルームがつまらない，21.体格，容姿の劣等感は，就職組がより多く悩む問題である。

もちろん，これら生徒の悩みは，生徒自身だけの問題ではない。指導者の態度が大きい影響力をもっていることであろうから，ここに現われたA校の進学希望者と就

Table 8　学校種別肯定回答比率

問題領域	問題番号	岐 男子 普通 N=141	岐 男子 工業 N=203	岐 男子 定時制 N=78	阜 女子 普通 N=66	阜 女子 定時制 N=92
Ⅰ 勉強のこと	1	80.9	79.3	79.5	72.6	82.6
	2	95.7	97.5	93.6	97.0	91.3
	3	36.9	46.3	42.3	43.9	38.0
	4	29.1	28.1	75.6	39.4	79.3
	5	15.6	19.2	28.2	9.1	28.3
	6	73.0	83.7	76.9	80.3	69.6
Ⅱ 学校生活	7	27.7	29.1	41.0	16.7	20.7
	8	53.9	57.6	64.1	47.0	57.6
	9	54.6	42.4	39.7	39.4	37.0
	10	76.6	66.0	65.4	87.9	63.0
	11	80.9	79.8	78.2	84.4	81.5
	12	63.8	68.0	67.9	66.7	46.7
Ⅲ 卒業後の進路	13	48.2	62.6	59.0	68.2	52.2
	14	11.3	19.7	14.1	18.2	10.9
	15	9.9	9.4	25.6	9.1	14.1
	16	9.2	20.2	26.9	13.6	16.3
Ⅳ 友人関係	17	41.1	43.8	35.9	34.8	33.7
	18	60.3	84.7	53.8	51.5	48.9
	19	27.0	35.0	33.3	37.9	39.1
	20	14.9	24.1	26.9	18.2	27.2
Ⅴ 健康・容姿	21	24.8	36.0	21.8	37.9	28.3
	22	13.5	18.2	24.4	13.6	25.0
	23	7.8	9.9	9.0	13.6	14.1
	24	15.6	20.7	26.9	16.7	18.5
Ⅵ 家庭生活	25	14.2	22.7	15.4	15.2	7.6
	26	15.6	24.1	11.5	15.2	16.3
	27	20.6	36.0	29.5	19.7	17.4
	28	21.3	32.5	20.5	21.2	17.4
Ⅶ 人生・社会	29	61.7	70.4	60.3	68.2	66.3
	30	75.9	84.7	78.2	77.3	88.0
	31	39.0	48.3	41.0	62.1	46.7
	32	24.1	34.0	28.2	31.8	28.3
総平均		38.7	44.8	43.6	41.5	41.0

問題領域	問題番号	浜 男子 普通M N=212	浜 男子 普通K N=250	松 女子 普通M N=53	松 女子 普通K N=45
Ⅰ	1	77.8	75.2	84.9	80.0
	2	94.8	89.2	96.2	91.1
	3	28.3	24.8	34.0	24.4
	4	38.6	45.6	41.5	44.4
	5	13.2	18.0	13.2	13.3
	6	76.9	62.4	81.1	53.3
Ⅱ	7	32.5	25.6	26.4	15.6
	8	53.8	38.0	43.4	17.8
	9	42.5	43.2	41.5	31.1
	10	66.0	49.6	77.4	68.9
	11	77.8	76.0	77.4	71.1
	12	57.5	40.0	62.3	20.0
Ⅲ	13	49.1	53.2	60.4	53.3
	14	17.0	13.2	13.2	13.3
	15	12.7	4.4	9.4	67.1
	16	15.6	12.8	9.4	5.6
Ⅳ	17	45.8	41.2	49.1	24.4
	18	70.3	72.4	58.5	53.3
	19	26.4	27.6	50.9	22.2
	20	22.2	15.6	30.2	13.3
Ⅴ	21	29.2	17.6	45.3	28.9
	22	17.0	16.0	13.2	17.8
	23	7.1	10.0	17.0	13.3
	24	19.8	19.6	22.6	24.4
Ⅵ	25	19.8	9.2	13.2	13.3
	26	22.6	14.8	13.2	20.0
	27	34.4	29.2	35.8	22.2
	28	29.2	18.8	22.6	15.6
Ⅶ	29	67.9	60.8	84.9	60.6
	30	79.2	72.8	86.8	75.6
	31	54.7	45.2	67.9	42.2
	32	29.7	19.6	50.9	22.2
総平均		41.5	36.2	44.8	34.0

Table 9　学校種別肯定回答比率検定結果

問題領域	問題番号	岐阜 男子 普通—工業	岐阜 男子 工業—定時制	岐阜 男子 普通—定時制	岐阜 女子 普通—定時制	浜松 男子 普通M—普通K	浜松 女子 普通M—普通K
I	1						
	2						
	3						
	4		≪	≪	≪		
	5						
	6					>	>
II	7						
	8					>	>
	9						
	10				≫	>	
	11						
	12				>	>	≫
III	13	<					
	14						
	15		<	<			
	16						
IV	17						>
	18	≪	≫				
	19						≫
	20			<			
V	21		>			>	
	22						
	23						
	24						
VI	25					>	
	26						
	27	≪					
	28					>	
VII	29						>
	30						
	31						>
	32					>	≫

Table 10　　進学・就職別肯定回答比率（A高校）

問題領域	問題番号	2年 N=96		3年 N=104		2・3年計	
		進学 N=74	就職 N=22	進学 N=56	就職 N=48	進学 N=130	就職 N=70
Ⅰ勉強のこと	1	71.6	77.3	67.9	56.2	70.0	62.9
	2	91.9	90.9	78.6	79.2	86.2	82.9
	3	28.4	9.1	26.8	18.7	27.7	15.7
	4	28.4	27.3	42.9	8.3	34.6	14.3
	5	12.2	18.2	25.0	10.4	17.7	12.9
	6	73.0	81.8	69.6	64.6	71.5	70.0
Ⅱ学校生活	7	29.7	9.1	32.1	16.7	30.8	14.3
	8	54.1	59.1	44.6	43.7	50.0	48.6
	9	45.9	27.3	42.9	35.4	53.8	32.9
	10	77.0	81.8	64.3	60.4	71.5	69.1
	11	77.0	86.4	64.3	79.2	59.2	81.4
	12	54.1	40.9	35.7	39.6	49.2	40.0
Ⅲ卒業後の進路	13	70.3	50.0	42.9	22.9	45.4	31.4
	14	14.9	4.5	12.5	8.3	10.8	7.1
	15	9.5	18.2	5.4	2.1	13.1	7.1
	16	8.1	0	17.9	8.3	18.5	5.7
Ⅳ友人関係	17	39.2	40.9	32.1	39.6	50.8	40.0
	18	66.2	72.7	66.1	70.8	43.1	71.4
	19	20.3	18.2	12.5	22.9	16.2	21.4
	20	14.9	18.2	10.7	16.7	20.8	17.1
Ⅴ健康・容姿	21	32.4	50.0	28.6	47.9	20.8	48.6
	22	10.8	9.1	5.4	10.4	11.5	10.0
	23	16.2	18.2	12.5	6.2	19.2	10.0
	24	13.5	31.8	23.2	12.5	17.7	18.9
Ⅵ家庭生活	25	10.8	13.6	19.6	6.2	14.6	8.6
	26	24.3	13.6	21.4	25.0	23.1	21.4
	27	31.1	27.3	39.3	14.6	34.6	18.6
	28	25.7	4.5	23.2	14.6	24.6	11.4
Ⅶ人生・社会	29	64.9	77.3	58.9	68.7	62.3	71.4
	30	79.7	81.8	78.6	77.1	79.2	78.6
	31	56.8	72.7	50.0	45.8	53.8	54.3
	32	21.6	22.7	21.4	14.6	21.5	17.1

Table 11　　進学・就職別肯定回答比率（A高校）検定結果

問題領域	問題番号	2年 進学－就職	3年 進学－就職	進学 2年－3年	就職 2年－3年	2・3年計 進学－就職
Ⅰ	1					
	2					
	3					
	4		≫			≫
	5					
	6					
Ⅱ	7					>
	8					
	9					
	10					
	11					<
	12					
Ⅲ	13			≫	>	
	14					
	15					
	16					
Ⅳ	17					
	18					
	19					
	20					
Ⅴ	21					<
	22					
	23					
	24					
Ⅵ	25					
	26					
	27		>			>
	28					
Ⅶ	29					
	30					
	31				>	
	32					

Table 12　　悩　み　の　原　因 (1)

問題番号＼原因	中学男子 N=289			中学女子 N=229			問題番号＼原因	高校男子 N=377			高校女子 N=257		
	1	2	3	1	2	3		1	2	3	1	2	3
1	8.7	11.1	57.1	5.2	8.3	65.5	1	3.2	2.7	60.7	2.7	1.9	72.0
2	49.1	9.3	33.6	50.7	4.4	28.8	2	37.7	8.8	37.7	49.0	3.1	34.6
6	21.1	5.2	50.5	19.7	2.6	46.7	6	6.2	2.9	46.7	21.0	0.8	47.9
10	8.7	21.8	22.8	9.2	15.7	36.2	10	4.0	31.3	30.5	1.6	25.7	44.7
11	28.7	3.1	23.9	28.8	3.9	28.8	11	23.9	7.7	30.8	30.4	5.8	37.0
13	13.8	38.8	2.1	20.1	36.2	0.9	13	6.9	37.4	4.0	5.1	38.9	5.8
18	20.8	12.1	20.4	16.2	7.4	17.5	18	28.4	18.3	4.0	35.8	12.8	4.3
29	23.2	22.1	3.8	30.6	16.6	3.5	29	37.7	13.0	2.4	48.6	14.0	1.9
30	28.4	25.6	14.9	27.5	64.9	9.6	30	10.6	29.7	25.7	19.1	40.1	16.0

Table 13　　悩みの原因 (1) 検定結果

問題番号＼原因	中学男子			中学女子			高校男子			高校女子		
	1—2	2—3	1—3	1—2	2—3	1—3	1—2	2—3	1—3	1—2	2—3	1—3
1		≪	≪		≪	≪		≪	≪		≪	≪
2	≫	≪		≫	≪	≫	≫	≪		≫	≪	
6	≫	≪		≫	≪	≪		≪	≪	≫	≪	≪
10	＜		≪		≪	≪	≪		≪	≪	≪	≪
11	≫	≪		≫	≪		≫	≪		≫	≪	
13	≪	≫		≪	≫	≫	≪	≫		≪	≫	
18							＞	≫	≫	≫	＞	≫
29		≫	≫	≫	≫	≫	≫		≫	≫	≫	≫
30		＞	≫		≫	≫	≪		≪	≪	≫	

職希望者の差異をただちに一般化することはできないけれども，ここでは与えられた条件のもとに，以上のことを述べるにとどめたい。

5.　学校生活において，悩みの原因となるものはなにか

以上において，現代の中学，高校生がどのような点に悩みを持っているかを，いくつかの角度から検討して来た。そこで最後には，それら悩みの原因はどこにあるかを考察しよう。

その原因は，はじめにも述べたとおり，それぞれの問題について3個づつ提示し，そのいずれか一つを選択させたのである。その結果は，Table12 のとおりである。

Table 14　　悩みの原因 (2)

問題とその理由	中男	中女	高男	高女
1　上手な勉強の仕方				
(3)　自分なりにやっているがうまくいかない	57.1	65.5	60.7	72.0
2　成績の悪い科目				
(1)　なんとなく好きになれない	49.1	50.7	37.7	49.0
(3)　その科目の基礎がわからない	33.6	28.8	37.7	34.6
6　勉強する気になれない				
(1)　テレビ・ラジオが気になる	21.1	19.7	6.2	21.0
(3)　ほかのことが気になる	50.5	46.7	46.7	47.9
10　ホーム・ルームがつまらない				
(2)　内容がつまらない	21.8	15.7	31.3	25.7
(3)　生徒間に関心がうすい	22.8	36.2	30.5	44.7
11　先生との話し合い				
(2)　自分から進んで話しかける元気がない	28.7	28.8	23.9	30.4
(3)　適当な機会がない	23.9	28.8	30.8	37.0
13　将来の進む方向				
(2)　自分の能力や適性がかわらない	38.8	36.2	37.4	38.9
18　異性の友人				
(1)　近づく勇気がない	20.8	16.2	28.4	35.8
(2)　近づく機会がない	12.1	7.4	18.3	12.8
29　人生の生き方				
(1)　自分の考えがはっきりもてない	23.2	30.6	37.7	48.6
(2)　将来どんな人間になればよいかわからない	22.1	16.6	13.0	14.0
30　大人の社会の矛盾				
(1)　大人は自分勝手	28.4	27.5	10.6	19.1
(2)　大人の行動にはうらおもてがある	25.6	34.9	29.7	40.1

ただ，ここに示した比率は，32個それぞれの問題について"悩みあり"としたもののみを分母として求めたのではなく，つねに被験者全員，すなわち，中学男子については289名，中学女子については229名を分母とし，それぞれの理由をあげたものの比率を求めている。したがって，ここに得られた値は，悩みありと答えた者の中で，どのような理由が多いかという意味ではなく，どこまでも現代の中学，高校生全体を問題にし，それらの中に，それぞれの理由がどの程度占めているかを問題にしている。

そこでここでは，さきにもっとも多くのものが共通して悩みありとした9問題だけをとりあげ，その原因を検討することにする。(Table 12，13)

(a)　これら9個のもっとも悩みを訴えることの多い問題の原因を見ると，それぞれの問題の中にあげた3つの選択肢の中，明らかにある1つの理由に集中しているものと，2つの選択肢がほぼ同等に他の1つの選択肢とは差をもってえらばれている場合とがある。しかし，それにもかかわらず，中学，高校男女別に検討すると，かなり共通した傾向を認めることができる。ただ，この数字だけから内容を説明することは困難であるので，各問題ごとに，有意差をもって答えられた原因と，その比率を列記することにする。(Table 14)

これらのの結果から，現代の中学，高校生が共通して悩んでいる問題，しかもその原因にもいろいろの特徴が現われている。

(a)　まず第一は，1.上手な勉強の仕方について，自分なりにやっているがうまくいかないという理由であり，ついで，6.勉強する気になれない理由として，ほかのことが気になるというもの，2.成績の悪い科目があって困る原因として，なんとなくすきになれない等は，それぞれ50%近く，あるいはそれ以上の生徒の訴えている原因

である。学校生活は学習が中心であり，そのことの成否は重要な問題であるけれども，前者のような問題や理由が，もっとも大きいものであるという事実は，反省させられるものである。

さらに，2.成績の悪い科目については，その基礎がわからないというもの，13.自分の進む方向に対しては，自分の能力や適性がわからないというのが，30%あるいは40%近くを占めていることも注目される。

(b) なおそのほか，中学よりも高校に進むにつれて減少する傾向のあるものは，29.人生の生き方について，将来どんな人間になればよいかわからない，30.大人の社会の矛盾に対して，大人は自分勝手なことが多い等の理由である。

しかしそれとは逆に，中学生よりも高校に進むにつれてむしろ増加する傾向のあるものは，10.ホーム・ルームの内容がつまらない，あるいは生徒間にホーム・ルームに関心がうすい等の理由，18.異性の友人には，近づく勇気がなく，またその機会がない，さらに19.人生の生き方に対しては，自分の考えがまだはっきりもてないからという理由などである。

高校生は次第に広く自分の周囲や大人の社会にも関心を持ちはじめながら，なおその方向を見出しえず，進むべき道を探索していると言うことができよう。

Ⅳ 要約と今後の問題

以上，現代の学校生活が，青年の人格形成の上にどのような役割を果たしているかの問題を追究するために，まず，現代の中学，高校生が，学校生活に関してどのように悩んでいるか，その実態を明らかにしようとした。そのために，勉強のこと，学校生活，卒業後の進路等8領域を設け，それぞれに4個と6個の問題を設定し，それらの問題についてかれらは悩みを持っているかどうか，そしてもし悩みがあるとするならば，その原因はどこにあるかを考察しようとした。

なお考察は，中学，高校，学年，男女ごとの比較や，さらに学校種別および就職希望であるか進学希望であるかによる悩みの情況を比較するために，名古屋市内の中学校ならびに普通課程の学校を対象とするほか，岐阜市内においては，普通課程の高校ならびに工業高校，定時制高校を，さらに浜松市内においては，同じく普通課程の高校ではあるが，進学率のもっとも高い高校と低い高校とを対象としてえらんだ。

なお方法はすべて質問紙調査によったのであるが，ここで得た結果は，およそ次のごとくまとめることができる。

1. 要約

(1) 32の問題に関して言うと，男子では中学の方により学年差がみられるが，高校では学年差のみられる問題は少ない。しかし女子は逆に，中学よりも高校の方により多くの学年間の差が認められる。

(2) しかし，全体としてみるならば，まず男子では，中学1年と2年との間に一つの断層があり，高校では2年生が1，3年に比してより多くの悩みを訴えている。

女子についても，この傾向はほぼ同様に認められる。

(3) 悩みの多い問題領域は，中学，高校を通じて“学校生活”に関するものであり，ついで多いのは，“人生・社会”に関する領域の問題についてである。

(4) 次に，中学，高校，男女をそれぞれまとめてみると，もっとも多く悩みを訴える問題はほぼ共通しており，悩みとならない問題もきわめて共通している。もちろん，部分的には，中学，高校さらに男女間には次に示されているように幾分差異を認めることはできるけれども，現代学校生活の中で生徒たちがもっている問題点は，中学，高校を通じてほぼ共通した面をもっていることが指摘される。

(5) しかしさらに，中学，高校を比較してみると，男女に共通してみられることは，男女とも，中学生よりも高校生の方がより多くの悩みを訴えている。これは高校生の方が中学生より現実をより深く理解し，他方，理想的自我がより一層確立されていることによって生ずるものと考えれば，うなづける点ではある。しかし，現代高校生があまりにも多くの悩みを持っているということは，反省されなければならない。

(6) なお，男女間の差についてみると，中学では男女間に差のある項目は少ないが，高校においてはそれがかなり増加している。そして高校では，男子が女子よりもより多くの悩みを訴えている点と，それとは逆に，女子が男子よりも多くの悩みを訴えている問題とがある。

(7) 次に，学校種別によって悩みの情況を比較すると，同じ市内にある普通課程の高校と，工業高校，定時制高校との間にはかなり異なった情況を示し，後2者はより多くの悩みを訴えている。そして，定時制高校では，4.勉強の時間がたりないという悩みは男女共通にみられ，他方，工業高校の男子では，18.異性の友人がえられないことに，より多くの悩みを訴えている。

(8) 同一市内にあってともに普通課程の高校であるが，進学率の高い学校と，進学率の低い学校との間にも，後者にはより多くの悩みを訴えている。しかもそれは，ただ“勉強”“学校生活”の領域についてのみでなく，きわめて広い問題領域に関してその差異が認められ

る。

(9) 進学希望か就職希望かの点からみると，ここではその差の現われているものが比較的少ない。これはサンプル数が少なかったことにもよるのであろうが，2，3年を合してみると，4.勉強の時間がたりないや，7.先生からの忠告をすなおにうけとれない等は，進学希望者に多い悩みであり，逆に，10.ホーム・ルームがつまらない，21.体格，容姿に劣等感をもつは，むしろ就職希望者に多い悩みである。

(10) 最後に，学校生活における悩みの原因は，中学，高校とも，もっとも多くのものが悩みありとした9問題だけを取り上げた。それらの中でとくに目立つものは，1.上手な勉強の仕方がわからない原因として，自分なりにやっているがうまくいかない，6.勉強する気になれない原因として，ほかのことに気をとられる，さらに，2.成績の悪い科目があって困る原因として，なんとなくする気になれない，等の事がらである。しかもこれらは，中学，高校生全員の50%近くあるいはそれ以上のものがあげている原因である。

2. 今後の問題

以上，現代の中学，高校生がいだいている悩みの情況を明らかにすることができた。中学生よりも高校生に悩みは多いし，同じ中学，高校については，中学1年より2年に進んで急に増加し，高校では，2年生が1，3年に比してより多くの悩みをもっている。さらに学校種別によってみると，普通課程の高校よりも工業高校や定時制高校生の方がより多くの悩みを訴えている。また，同じ普通課程にあっても，進学率の低い学校は高い学校に比してより多くの悩みを訴えている。また，悩みの原因は，勉強する方法や意欲の不足を訴え，現代の学校生活が青年の人格形成に多くの問題点をはらんでいることが暗示された。

今回の研究では，およそ以上のような結果を得た。しかし現在の資料も，なお別の角度から検討すべき問題点を残しているし，今後さらにこれをどのように発展させるべきかは，より大きい課題である。

(1) まず，問題領域や問題の選定は十分適切妥当であったであろうか。筆者らは，はじめからこれを概念的に構成することなく，現代の中学，高校生の中から取出し構成する方法をとった。それは，この研究の目標に沿った妥当なものであったと考えているけれども，他に重要な問題が洩れていないという保証はない。それは今後なお検討しつづけねばならないと考えている。

(2) 次に，悩みの"原因"についてである。それも，生徒の具体的な生活体験の中から引き出したものであり，個々の問題については適切な選択肢をえらび得たと考えているけれども，各問題ごとの原因間に一貫した原理を立てて選択することができなかった。もちろんそれは，最初，筆者等の間で討議を重ねたことであったが，問題の性質がそれぞれ異なっており，それぞれに通じた一貫した原因を取出し得なかったことは，問題点として残っている。このことは，調査法自体の問題としてもいっそう検討したいと思う。

(3) さらに，学校種別や進学希望，就職希望等によって悩みの情況の異なることは明らかにされたけれども，それぞれの差異が，どのような原因によって生じているのかの検討はされなかった。そのことの検討は，学校生活の内面についての差異をいっそう明らかにするであろうが，今後の問題としたい。

(4) 以上のほか，現在の資料についても検討すべき問題は残っているであろうが，それはしばらくおくとして，今後どのように発展すればよいのであろうか。それは"悩み"そのものに対する考え方の上にかかっているかも知れない。筆者等は本報告において，中学，高校生の"悩み"を問題として来た。しかしわれわれは，悩みを持つということが，ただちに人格形成の上に悪い影響を与えるとも，あるいはまたそれはよい影響を与えるとも断定してかかっているものではない。悩みを持つということは，現実を直視し，さらに他方，理想を追求しようとする態度から生れて来るものと考えられる。いわば，現実的自我と理想的自我の矛盾葛藤があってこそ，ひとはそこに生き甲斐を感じ，生活の向上発展も期待されうるのである。したがって，悩みを多く持つということは，現実を直視し，ばくぜんたる形であってもとにかく理想的自我が確立されつつある証拠と考えてよいであろう。そこにわれわれは今後の研究課題を方向づけようとしている。

すなわち，この悩み，現実的自我と理想的自我の矛盾葛藤に対して，現代の青年はどのように対決しようとしているのか。あるものはそれを克服して，新しい自己形成に積極的な構えをもっているかも知れないし，またあるものは，矛盾葛藤を感ぜず，あるいはそれから逃避するような消極的態度を示すかも知れない。さらにまたあるものは，この両者の間を振子運動のように往き来するかも知れない。その点が捕えられるならば，青年の人格形成に対して，現代の学校生活が果たしている役割は浮彫りすることができるであろう。それは今後の研究として，われわれの意図しているところである。

後記

この研究を進めるにあたって，名古屋市，浜松市，

岐阜市内の多くの中学校，高等学校が積極的な協力を与えられたことに対し，厚く感謝の意を表したい。そのほか，本学ならびに静岡大学，岐阜大学の研究室からも数々の援助をいただいた。ことに，本学の"研究室の談話会"では，中間報告をする機会を与えられたが，その時，教官各位はもちろん，助手，大学院学生諸君からもいろいろ批判をいただいたことは，研究を進める上に大きい助けとなった。ともに記して厚く感謝の意を表したい。　(1965年8月)